

富津市社会教育委員会議会議録

1 会議の名称	平成24年度第2回富津市社会教育委員会議
2 開催日時	平成24年12月19日 午後2時10分～午後4時5分
3 開催場所	富津市役所502会議室
4 審議等事項	(1) 第47回君津地方社会教育推進大会について等報告 (2) 「いじめ問題について」研修
5 出席者名	(委員) 庄司智子、齋藤啓一、小曾根克己、森淳一、大野佳志子、黒岩功充、深津幸三、関谷康男、小泉清治、平山悟、綾部雅喜、高橋栄二、杉田玲子、森千枝子 (事務局) 藤平教育部長、藤江参事兼生涯学習課長、平野生涯学習課主幹、當眞主査、金子非常勤一般職、岩波社会教育指導員
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="radio"/> 公開 ・ <input type="radio"/> 一部非公開 ・ <input type="radio"/> 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	0 人 (定員 5 人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 社会教育係 電話 80-1345
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

平成24年度第2回 富津市社会教育委員会会議録

発言者	発 言 内 容
(事務局) 藤江課長	(本日の会議が、委員定数15名のうち、出席委員14名、欠席委員1名のため、会議が成立することを説明。平成24年度第2回富津市社会教育委員会会議の開会を宣言)
(委員長) 小泉委員長	(小泉委員長挨拶)
(事務局) 藤江課長	(会議の公開についての説明) 議題に入る前に、会議録署名人の選出について協議願いたい。これより議事の進行は小泉委員長にお願いしたい。
(議長) 小泉委員長	議題に入る前に、会議録署名人についてだが、私の指名でよろしいか。
委員一同	異議なし。
(議長) 小泉委員長	それでは、会議録署名人は、私と深津幸三委員でよろしいか。
委員一同	異議なし。
(議長) 小泉委員長	会議録署名人は私と深津幸三委員に決定する。 会議次第の4報告に入る。始めに(1)第47回君津地方社会教育推進大会について、当日参加した黒岩副委員長に報告をお願いしたい。
黒岩副委員長	第47回君津地方社会教育推進大会は、7月14日土曜日、袖ヶ浦市民会館ホールにて開催されました。富津市からは、小泉委員長、高橋委員、関谷委員、森淳一委員、小曾根委員、大野委員、綾部裕美子委員と私が出席いたしました。表彰があり、富津市からは、個人の部で高橋委員、団体の部で富津公民館サークルのロゼラニフラサークルが受賞いたしました。あらためて、高橋委員おめでとうござ

ございました。社会教育推進大会に共催しております新日鐵住金株式会社君津製鐵所のクローバー賞がありまして、4団体が受賞されました。続きまして、千葉大学教育学部明石要一教授による「地域の教育力～体験が人生を決める～」をテーマとした記念講演がありました。明石先生はこの地域のことをよくご存じで、私も何回か話をうかがう機会がありましたが、そのたびに違った話題を話されています。教えるのではなく、自分の方へ参加させるといった講演でした。非常に感銘を受けました。参加者とじゃんけんをしました。生まれた子どもでも「グー」と「パー」は出せる。「チョキ」は知恵がついてからではないと出せない。また講演の中で気になったことは、「経済格差が体験格差を生み、体験格差が学力格差・体力格差を生む」という話です。私は経済格差は人生の格差になっており、気にしないでも良いのではないかと考えておりましたが、明石先生は体験格差の是正の施策とか、地域や施設の活性化によって、平等に体験することができるようにやりましょうという趣旨の講演内容でした。経済格差をなくすのはちょっと難しいことかなとは思いますが、体験格差をなくしていかなければいけないと感じました。明石先生は、参加者を引っ張り込むような話し方で、大変参考になりました。記念講演の後に、大会決議文が決議されました。今年の参加者の総数は286名で、富津市からは50名の参加がありました。来年は木更津市が開催市となりますので、皆様のご協力をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(議長)
小泉委員長

ありがとうございます。いま黒岩副委員長から報告がありましたが、何か聞きたいこと等はありますか。

君津地方社会教育推進大会も47回目を迎えて、千葉県社会教育振興大会も47回目を迎えております。また富津市においても、このあと報告があります生涯学習推進大会も、社会教育振興大会から名称を変更していますが、社会教育振興大会を含めると47回を数えます。

続きまして、報告(2)君津地方社会教育委員連絡協議会移動研修会について、参加しました杉田委員に報告をお願いいたします。

杉田委員

9月28日に君津地方社会教育委員連絡協議会移動研修会が開

催されまして、参加してまいりました。参加者は4市で計27名。木更津市生涯学習バスにて移動し、研修先は千葉地域若者サポートステーション（サポステ）と市原市青少年指導センターです。午前中に千葉地域若者サポートセンターを見学し、所長の平山氏より千葉県の若者雇用状況やサポステの紹介、働くことや自立についての様々な支援の提供内容などを伺いました。それからサポステの卒業生による体験談や演劇部による朗読を鑑賞しました。昼食をとり、午後には市原市青少年指導センターを訪問いたしまして、担当者より、今年4月にこれまでの青少年指導センターに子ども・若者の総合相談窓口を開設したそうです。その取り組みの概要や狙いについて、開設後まだ6か月ということでしたが、相談状況とか課題についてなどを伺いました。2か所とも説明後に質疑応答の時間を設けていただいて、他市の方々より活発な質問や意見交換がなされました。私はこの研修に初めて参加したのですが、1日終わって、富津市では、このような若者への対策をどのように考えて、どのような対策がなされているのか、是非お話をうかがう機会を設けていただきたいと思いました。以上、報告とさせていただきます。

(議長)
小泉委員長

はい、ありがとうございます。杉田委員さんにとっては初めての研修となりましたが、大変お骨折りいただいてありがとうございます。杉田委員から君津地方の移動研修についての様子をうかがったのですが、何か御質問はございますか。

特に質問等はないようですので、次に、(3) 富津市民文化祭2012についての報告ですが、これについては、私から報告いたします。

富津市民文化祭2012は、宮内和男実行委員長の下、11月1日木曜日から11月4日日曜日までの4日間、富津公民館、中央公民館、市民会館、総合社会体育館の4会場で開催されました。ポスターにつきましては、市内小中学校に募集したところ、184点の応募がありました。その中から佐貫中学校3年渡辺唯さんの作品が優秀作品として文化祭ポスターに採用されました。また、メインテーマは、市内小中学校および一般から募集をしたところ511点の募集があり、その中から優秀作品として、富津中学校3年渡辺真衣

<p>(事務局) 藤江課長</p> <p>(議長) 小泉委員長</p> <p>庄司委員</p>	<p>さんの「つなげていこう 富津の輪 深めていこう 地域の絆」が採用されました。文化祭全体の出演・出展者数は3,936人、展示部門作品数は3,047点、芸能部門・催し部門の曲数は261曲、こどもまつり部門の種目42種目で、日頃の活動成果による作品または芸能発表等、大変すばらしい内容でした。参観数は15,018人でした。気になった点は何点かありました。小中学校の音楽の集いで、各中学校からの1団体からの参加となっております。富津中は約600人の中からの1団体の参加で、天羽東中は約70人で、8倍ちょっとの格差があるわけです。いろいろ話があつて決められると思いますが、富津中は各学年ごとに3団体の参加があつても良いのではないかと思います。それが1点です。あと1点は、芸能祭の件です。サークルの発表が主体で、終わると帰ってしまって、いつも見学している人は少なく、出演している人だけの文化祭といった感がある。湊の市民会館では、ダンスを主体として、年配の方もいましたが、1日踊っていました。そんなものを見て富津市にはまだまだパワーを持ったお年寄りがいっぱいいるなど感じました。以上が私の見た市民文化祭の報告です。これについて何か質問等ありませんか。</p> <p>さきほど私が気になった点の1点目、小中学校音楽のつどいの選出方法は教育委員会は関与していないんですか。</p> <p>音楽の集いについては、小中学校で市民文化祭に合わせて、開催しています。1校につき、小泉委員長の御意見のように在校生が多い割には参加団体が少ないということではなくて、大会ということでお願いしています。</p> <p>学校代表の庄司委員なにかこの件につきまして、御意見はございますか。</p> <p>私は小学校なので、中学校はどのように選出しているのかはわかりませんが、各学校で取り組んで代表で選出されるものなので、各学校1団体となっております。ただ大きな中学校になると学校の中で予選会を開催して1番のところが参加するという形になるかと思っています。小さな学校ですと全校で参加するとか、必ず1校から1団</p>
---	---

<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>体参加する形です。</p> <p>庄司委員の話をお聞きして全く問題ないなと感じました。各校1代表ということで問題なさそうです。</p> <p>次に、(4)第47回千葉県社会教育振興大会について、深津委員から報告願います。</p>
<p>深津委員</p>	<p>第47回千葉県社会教育振興大会に初めて参加いたしました。1月16日金曜日、第47回千葉県社会教育振興大会が千葉県総合教育センター大ホールにて開催されました。富津市からは、小泉委員長、黒岩副委員長、森淳一委員、私4人と事務局から平野主幹が参加しました。この大会は、私たちの故郷千葉県の人々が心豊かに生き生きと生活できるまちづくりのために社会教育委員ならびに社会教育関係者が一堂に会して、各地区の社会教育活動の成果や社会教育の推進についての情報交換するということでございます。研究協議を深め、本県社会教育の振興を図ることを目的に、「人を育み、地域をつなぐ、社会教育の力」をテーマに開催されました。千葉県社会教育委員連絡協議会中山清志会長のあいさつの後、社会教育功労者表彰が執り行われました。式典の終了後、事例発表が行われ、初めに君津地区より、清和地区郷土芸能の祭典実行委員会木曾野正勝さんの「郷土芸能の祭典に取り組んで」の発表がありました。清和地区には、千葉県指定無形民俗文化財の棒術・鞆鼓舞・梯子獅子舞・さんちょこ節が伝承されています。近年の少子高齢化によりまして、その伝承が危ぶまれている。課題解決に向けての取組と地域の活性化のため、郷土芸能を一同に集めて、清和地区の郷土芸能の祭典を開催して、地域住民に郷土芸能の素晴らしさや伝承の大切さについての発表をされました。次に市原市教育委員会村上雅志社会教育主事より、「市原市のめざす生涯学習社会」を発表されました。市原市では、「いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習都市いちはらの実現」に向けて、「いちはら生き生きプラン」を策定し、生涯学習によるひとづくりからまちづくりへのために、個々の学習や学習の成果が社会に活かされる「学びの循環」、市民の力、地域の力を養い、市民が主役となる生涯学習によるまちづくりをめざし、「学ぶ・活かす・つなぐ」をキーワードとして、学びの循環</p>

についての紹介がありました。事業内容については、パフォーマンスコースとシルバーカレッジの開講、あるいは、生涯学習フェスティバルなどを開催しているということでございます。

次に、千葉市社会教育委員菊池まりさんより、家庭教育支援チーム「こもんず」の取組についての発表がありました。家庭教育支援チーム「こもんず」は、臨床心理士、保育士、子育てサポーター、民生委員、児童委員、PTA関係者により結成され、稲毛区小中台中学校区を中心に家庭教育の支援についての成果と課題についての報告がございました。

事例発表の後に、講師の落語家山遊亭金太郎による「笑顔でつながるまちづくり」と題する記念講演が行われ、笑いには良い笑い悪い笑いがあるとのことで、面白おかしく講演を拝聴いたしました。終了後に大会決議文が参加者全員により採択されまして、閉会となりました。以上でございます。

(議長)
小泉委員長

この大会には森委員も参加なさいましたが、何か御意見はございますか。

森 淳一 委員

初めて参加しましたが、千葉県各地区からたくさんの方々が、参加しておりました。今回は3つの代表の事例発表がありまして、千葉県には非常に長い歴史のある文化が連綿と存在しているということ、生の声を聞くことができ、感銘を受けました。とても勉強になる大会でした。そこに携わっている方々が長い年月力を合わせて取り組んでいるということを見させていただいて、とても勉強になりました。感想でした。

(議長)
小泉委員長

ありがとうございます。今お話があったように、今年は色々な機会を通して皆さんに参加していただきました。いつも会議が終了すれば、解散となってしまいますが、このように県の大会、地方の大会へ研修で参加していただいて、よその実態も知ることができた一年だと思います。深津委員大変貴重な時間ありがとうございました。

今の深津委員からの報告につきまして、御質問等ございますか。他に御質問も無いようですので、次の報告(5)平成25年成人

	<p>式について、私から報告いたします。</p> <p>平成25年成人式は、成人に達する若者の新しい門出を祝福するとともに、良き社会人として自ら生き抜こうとする青年を励ますことを目的に、1月13日の日曜日、午後2時から富津公民館にて開催いたします。平成4年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた市内住居者452名および市外転出者で出席を希望する者を対象に行います。式典は、今回も新成人の司会進行で始まり、「成人としての主張」は、例年のとおり富津・大貫・佐貫・天羽・峰上地区の各代表1名の合計5名が発表いたします。その後、「成人に送ることば」を富津中学校の代表が行い、午後3時頃終了の予定です。詳細につきましては、配布した開催要項をご覧くださいと思います。社会教育委員にも招待状が届いたと思いますので、ぜひ参加して、お祝いしていただきたいと思います。</p> <p>以上で成人式についての報告を終わります。</p> <p>事務局から何か補足説明等ありますか。</p>
<p>(事務局) 藤江課長</p>	<p>特にありません。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>社会教育委員からの意見も取り入れながら、成人式を実施しておりますので、何か、気付いた点がありましたら、お願いいたします。</p> <p>それでは、次の報告(6)第13回富津市生涯学習推進大会の開催について、事務局から報告いたします。</p>
<p>(事務局) 平野主幹</p>	<p>10月26日に、富津市生涯学習推進協議会が開催され、第13回富津市生涯学習推進大会の開催要項が決定しましたので報告いたします。</p> <p>その内容につきましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 趣旨は、いつでも・どこでも・だれでもが生涯学習に関われるように支援し、自分自身の資質の向上はもとより、市民憲章に掲げる住みよいまちづくりに寄与することを目的に、大会を開催する。 2 主催は、富津市 3 共催は、富津市民憲章推進協議会・富津市社会教育委員・公民館運営審議会

- 4 主管は、富津市生涯学習推進協議会
- 5 期日は、平成25年2月3日 日曜日
13時20分から16時までの予定です。
- 6 会場は、富津公民館 ホール
- 7 大会テーマは、「学びから 生きがいを 生きがいをまちづくりへ」
- ① 心と体が健康で、生き生きとした人間性豊かな人づくり
- ② 人と文化と自然を愛し、潤いのあるふるさと
「ふつつ」づくり でございます。
- 8 日程につきましては、
- 12時15分～12時45分 受付
- 12時45分～13時15分 教育委員会表彰を行います。司会進行は、川名教育部次長が行います。
- 教育委員会表彰終了後、生涯学習推進大会に入りますが、大会の司会進行は、中央公民館でサークルを行っております話法グループクレマチスが行います。
- 13時20分～13時50分 オープニングアトラクションですが、昨年引き続き県立君津商業高等学校の吹奏楽部に演奏していただくことになりました。
- 13時55分～14時15分
- ① 開会のことば を
生涯学習推進協議会の大野泰代 会長。
- ② 主催者あいさつを
生涯学習推進本部長の佐久間市長が行います。
- ③ 来賓祝辞は、当日ご出席をいただきました
国会議員・県会議員・市議会議長の方々をお願いする予定です。
- 14時25分～15時55分 の講演についてであります。講師にナグモクリニック総院長南雲吉則氏をお招きし、「若返りと長寿の秘訣」の演題で行います。
- 講師の南雲 吉則 氏は、ナグモクリニック総院長を務めています。講演内容については、食事の内容や生活習慣を変えるだけで普段の生活をしながら実践できる若返り術をわかりやすく話していただきます。なお、南雲氏の著書を抽選で10名の方にプレゼントをいたします。

<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>15時55分から閉会のことばを生涯学習推進副本部長の渡辺教育長が行いまして、大会は終了となります。</p> <p>詳細につきましては、お手元の開催要項をご覧くださいと思います。</p> <p>当日は、委員のご参加をお願いいたします。</p> <p>以上で、第13回富津市生涯学習推進大会の開催についての報告を終わります。</p> <p>事務局からの報告は終わりました。</p> <p>委員の皆さんから、御質問等ございますか。</p> <p>無いようですので、会議次第4 報告事項を終わります。</p> <p>ここで、暫時休憩といたします。</p> <p>《休憩》</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>休憩前に引き続き会議を開きます。</p> <p>会議次第5 研修に入ります。</p> <p>研修会の講師を御紹介いたします。</p> <p>本日は、御多忙のところ教育センターの指導主事細谷憲一郎氏をお招きし、「いじめ問題について」のテーマにて研修をお願いしてございます。</p> <p>御説明終了後、質疑の時間を取りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、教育センター細谷指導主事説明をお願いいたします。</p>
<p>(講師) 細谷指導主事</p>	<p>富津市教育委員会、教育センターの細谷憲一郎と申します。</p> <p>本日は、富津市の子ども達のいじめ問題についてのお話しさせていただく機会をいただきありがとうございます。</p> <p>まずはじめに、小中学生の学校生活の様子をお知らせします。</p> <p>次に市内児童生徒のいじめ問題、問題行動の実態と対策について、お話させていただきます。</p> <p>11月末現在の富津市の小学校の児童在籍数は、12校で2,019人、中学校は5校で1,203人です。</p> <p>学校規模も大きな差があり、500人台の学校が小中それぞれ1校</p>

ある一方で、小規模校は最も小さな小学校で、13人、中学校は72人となっています。

市内の児童生徒の推移をご覧ください。

近年、小中学生の減少は著しく、約45年前の多いときと比較すると、現在は当時の約半数となっています。富津市の将来を担う子どもたちの健全育成をめざし、本日お集まりの社会教育委員さんもお力添えを得ながら、日々の活動に取り組んでいます。

小中学校内の生活は全体的に言いますと、ここ数年落ち着きをみせています。少し前は、生徒指導等において心配な方もいらっしゃいましたが、きちんと学校生活を送ることができる児童生徒がほとんどです。

また、本市の子どもたちを一言で表せば、「明るく、活発・前向きな考えを持っている、運動が好き、」といったところでしょうか。毎年実施している体力テストの結果については、県内でもトップレベルです。反面、子ども達はこつこつと取り組むことが苦手な傾向が見られ、学習面についてはさらに伸ばすことができると考えています。と同時にもっとがんばらせる必要があると感じています。

ここでいじめの定義についてご説明したいと思います。

自分より弱いものに対して一方的に身体的・心理的な攻撃を加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの

以前の定義は、①一方的②継続的③深刻な のすべてを満たしていなければ「いじめ」ではないという考え方がありました。そのため、「いじめ」の定義は厳密なものになりがちでした。このケースは「いじめ」だが、このケースは「いじめ」ではない、という線引きがありました。

18年度の見直しでは、「一方的に」「継続的に」「深刻な」という文言が削除されました。このことは、いじめを「一方的に」「継続的に」「深刻な」行為・状態かどうかという観点で判断するのではなく、子どもがいじめられていると感じたら、それをいじめとして理解するという考え方を示したものです。

被害者の視点に立ち、いじめの定義を拡大することで、心に苦痛を受けている子どもを早急に認知しようという趣旨があります。

つぎに、いじめの状況について述べます。

このグラフは市内小中学校でのいじめの認知件数で、学校で把握

した件数となります。

文部科学省では、平成18年度からいじめの定義を「当該児童生徒が一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」として調査しています。

このため、同省が各都道府県教育委員会を対象に行っている調査で、平成18年度の全国の小中高校が把握したいじめの件数は、前年度の6・2倍にあたる約12万5000件に跳ね上がりました。10年度は約7万5000件で、定義が見直されて以降、初めて前年度より増えました。富津市でも18年度にグラフが大きく上昇していることがわかります。

都道府県ごとにみると、把握件数はかなりばらつきがあり、学校の取り組みの差も影響しているとみられています。

最近のいじめは、巧妙化、潜在化、集団化するなど、見えにくくなっていますが、その行為や形態は次のようなものがあります。

冷やかし・からかい、悪口や脅し文句、いやなことを言う。

「汚い」「くさい」「キモい」身体や動作について不快な言葉を用いる

「死ね」「消えろ」存在を否定する。

「ウザイ」感情的な言葉で傷つける。嘘の噂、悪口をいいふらす。いやなあだ名をしつこく呼ぶ、替歌をつくってバカにする

持ち物隠しなど

教科書、靴、カバン、体操服などを隠したり、盗んだりする。持ち物をゴミ箱、川などに捨てる。掲示してある写真を傷つける。カバンや靴をこわす

仲間はずし・集団からの疎外。

口をきかない、集団で無視。その子が何かをするとにらむ。咳払いをして、みんな目配せする。その子が発言すると、それをみんな否定する発言する。席を近づけない。その子が触ったものを触らない。

暴力をふるう

休み時間にプロレスごっこを称して技をかけられる。トイレやロッカーに閉じ込められる。体をこづかれる。なぐるけるを繰り返される。

たかり、強要、命令

脅してお金を持ってこさせる。大勢の前で衣服を脱がせる。食べ物、飲み物をおごれと強要、使い走り、人のいやがる仕事などを押しつける、

パソコン・携帯電話での中傷

パソコンや携帯の掲示板やブログに悪口や恥ずかしい情報を載せる。いたずら、脅迫メールを送り続ける。特定の子どものアドレスや誹謗中傷メールを一斉にばらまいたり、仲間内に回したりする

これは、文部科学省が7月に行ったいじめ緊急調査の結果です。富津市におけるいじめの様態の結果です。

小学校、中学校ともに冷やかし、からかいが多く。小学校では、嫌なこと、恥ずかしいことなど言葉でのいじめ、中学校では、さらに軽くぶつなど、PC、携帯などネット上でのいじめが特徴です

これは、文部科学省が7月に行ったいじめ緊急調査の都道府県別のいじめ認知件数を表にしたものです。

都道府県別で見ますと、最多の鹿児島、から最少の福岡、佐賀まで大きな差が見られました。千葉県は、認知件数1000人あたり24.2人で多い方から6番目となっています。数値が大きく伸びた県はアンケートの取り方に工夫をしています。鹿児島県では、単にいじめがあるかないかを選ばせるのではなく、「意地悪をされていやな思いをさせられたりすることがありますか」と尋ね、さらに「仲間はずれ」や「無視」をされるという具体例を示し、一つでもあてはまると「いじめ」とカウントしているそうです。奈良県では、アンケート記述欄で全員の記述を指示し、被害を受けていない子には、「いじめのない学校を作るにはどうすればよいか」を書かせ、いじめを受けている子が、クラスの中で目立つことなく詳細に記述できる工夫をしたようです。

これを考えていきますと、認知件数が多いことが必ずしも悪いわけではなく、その分解決した件数が多かったり、逆に件数が少ない県でも命に関わる事例が起こったりしています。

数値に左右されることなく、いじめについての早期発見と解決にどう役立ていくかを考える手だてとしていく必要がある。

「いじめ」とは、代表的な行為は、からかいやいじわる、いたずらや嫌がらせ、陰口や無視などで、事件化した事案のように激しい

暴行や傷害を伴うものは例外的です。個々の行為だけを見れば、好ましくはないものの、“ささいなこと”、日常的によくあるトラブル、という点が特徴です。

しかし、そうしたささいに見える行為をしつこく繰り返されたり、複数の者から繰り返されたりすることで、いらだち・困惑・不安感・屈辱感・孤立感・恐怖感等がつのり、時に死を選ぶほどに被害者が追い込まれることから、いじめを問題視していく必要があるのです。

ささいに見える行為の累積がもたらす甚大な精神的被害という“目に見えにくい”攻撃行動に適切に対応するには、行為自体が“目に見えやすい”「暴力」とはしっかりと区別して考えていく必要があります。

特定の“いじめっ子”や“いじめられっ子”だけの問題ではなく、どの児童生徒も被害者にはもちろん、加害者になり得るという「事実」を正しく理解することが大切です。

「深刻ないじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうる」というのは、1996年1月の「文部大臣緊急アピール」の一節です。比喩的な表現として受け止めるのではなく、長年の調査によって裏付けられている「事実」を指摘したものといえます。

いじめの社会問題化には波があっても、いじめの発生自体に目立った波やピークはないこと。非行や暴力の多い学校や学年で起きやすいといった事実はないこと。特定の児童生徒が起こしているといった事実も確認できないこと。

それらはすべて、調査で確認された事実でもあります。

むしろ、多くの児童生徒が被害者としてだけでなく、加害者としても巻き込まれていること、さらに被害者も加害者も比較的短期間で大きく入れ替わる事実をしっかりと認識しましょう。

次にいじめの構造について説明をさせていただきます。

いじめは特定の人間関係の中で生じた場合であっても、学校やグループなどの集団の中で構造化することが多いです。教師はそれぞれの層（グループ）に対して指導を行う必要があります。

一番内側、赤で示されているのがいじめられている子ども＝被害者とします。被害者は一人の場合が多いようです。

加害者、グレーで示されています。複数の場合が多いようです。いじめは被害者と加害者が大きな要因となっていることは周知の事実だと思います。それゆえ、いじめるといじめられる子どもだけに目が注がれがちですが、「観衆」や「傍観者」などの周囲の子どもたちの反応が大きく影響しているようです。

「観衆」＝青で表示・・・いじめなどをはやし立てておもしろがって見ていて自分のストレスを解消する子どもたち。その役割は、明らかにいじめを指示する層、扇動者の役割を果たしている。結果的にはいじめを助長してしまっています。

「傍観者」＝黄色で表示・・・見て見ぬふりをしている子どもたち。いじめの行為は積極的には行わないがいじめを制止するなどの行為や態度を示すことはない。この層はいじめの暗黙の支持者であり、集団にいじめの正当化や承認の効果を発生させています。この四層は固定化したものでなく、いじめがエスカレートするにつれて外側に膨張するし、いじめが拡大していきます。

いじめるといじめられる側は役割が替わることもあります。いじめるといじめられる側の子どものいじめに加担しないことで、いじめられる側になることがあります。観衆と傍観者の存在は、いじめられる子どもの苦痛を増し、いじめを容認し、エスカレートさせる大きな要因となります。この層をなくすことが、いじめの根絶の大きな課題であるとも言われています。

いじめを解決するには、いじめている子どもといじめられている子どもの双方の心理状態を理解することが大切です。最近のいじめには、「理由なきいじめ」や「見えにくいいじめ」が見られます。

いじめている子どもの心理を見ていきましょう。

①ストレス発散型です。

むしゃくしゃした気持ちのはけ口として、特定の子どものいじめ。動機がなく、とにかく気に入らない、何となくむかつくなど自分でもよくわからない衝動に駆られる場合、自分の行動を正当化するために「〇〇さんはちゃんとしていないから・・・」などの理由をつけ、自分こそが被害者であるという意識が強い。

家庭内にストレスとなる要因を抱えている場合、また虐待を受けている可能性

②集団圧力型

自分がいるグループの仲間がいじめをしたので、自分もいじめをしなければ、「仲間はずれ」になってしまうという恐れ。自分がいじめられていた経験から、自分より弱い立場の人をいじめてしまう

③面白半分型

相手の反応をおもしろがって行ういじめ。いじめられている子どもがただ黙っているだけであったり、おどけたように笑っていたりすると次第にエスカレートする場合がある

次にいじめられている子どもやその周囲の子どもたちの心理を見ていきたいと思います。

①自分自身の弱みを自覚

勉強ができない、運動ができないなど、いじめられる側が「自分にも責任がある」と思い込んでしまう。いじめられることで、自分の弱さをいっそう心に刻み込むことになり、「どうせ自分は・・・」と自尊心が失われていく。

②いじめの現実から逃避

いじめられている子どもがいじめに耐えようとしておどけたように笑う場合がある。この行為は「いじめではない。一緒に遊んでいるだけなんだ。」と自分に言い聞かせて、自尊心を保とうとしている。

③周りの大人の助けを求めない

いくらいじめられても、「大人に助けを求める弱虫という目で見られたくない」という思いから、相談したり、訴えたりしない場合が多いです。しかし、本来子どもは本心を訴えたいという気持ちが強く、子どもたちが訴えてくるような教師や保護者になるように努める必要があります。

④自分もいじめられたくない

周囲の子どもたち、いわゆる観衆や傍観者は、悪いとわかっている、大人にはなかなか言わないことがある。言うこと(=ちくる)が仲間への裏切りとみなされれば、今度は自分がいじめの対象になるかもしれないからである。

ここでいじめの認識について、これまで少なからず言われていた3つの間違いについて話したいと思います。

“いじめは子どものけんかにすぎない”

けんかは力が対等な子どもの間に起こる争いですが、いじめは優

勢な立場にある子どもが劣勢な立場にある子どもに対して、しばしば多数対一人（または少数）で行うものです。

“いじめられる子どもにも問題がある”

いじめられた子どもは、何も悪いことをしていないのにいじめのターゲットになってしまった被害者です。性格などに、いじめられやすい特徴があったとしても、その子どもの個性であり、問題点ではありません。欠点はどの子どもにもあります。いじめる側が悪い、という認識を徹底するべきです。近年は、誰でも被害者となる可能性があり、また、いじめられた子どもがいじめたり、いじめた子どもがいじめられたりと、立場が流動的になっているとの報告もあります。

いじめられた子どもは“強くなるべきだ”

いじめを打ち明けられた時に、子どもに「強くなれ」という親は多いようですが、子どものほうでは自分に否があると責められたと感じて、心を閉ざしてしまいがちです。いじめに対処する術を身につけることは必要ですが、親が子どもと一緒に対処方法を考えることが必要です。いじめられた子どもが“強くなって”、他の子どもをいじめる、というケースも多いようですが、いじめの連鎖となってしまうだけです。

教師をはじめ、周囲の大人は「いじめは絶対にゆるされない」という強い認識に立って、この問題に取り組まなければなりません。

- ・教師は「いじめることは人間として絶対に許されない」
- ・いじめられている児童生徒の立場に立つ
- ・社会で許されない行為は子どもでも許されない
- ・行為として軽微なものでも、その本質を見抜く

「いじめは必要悪である」「いじめられる方にも悪い点がある」の考えは一切否定されるべきものであると考えます。

自分の学級にいじめはない、あの子どもに限ってなどの思い込みは、いじめの機会を見逃すだけでなく、対応の遅れをこじれさせたりすることにもつながります。

ストレスのはけ口としてのいじめが行われたり、いじめる側といじめられる側とが逆転したりすることもあることなどから、すべての子どもがいじめる側にもいじめられる側にもなり得るととらえるべきであると考えます。

いじめが起こった場合、まず、いじめの解決に向けてどのように取り組むか、その後、何を指導、援助していくかが大切です。いじめの発生は、加害者と被害者の関係だけでおこるのでなく、学級の雰囲気の影響も大きい。

そのため、いじめをさせないという人権に配慮した環境作りがここがけるとともに、何よりも自分たちでいじめ問題を解決できる力を育成することが大切です。

いじめは、いじめられている本人から訴えることが少ないこと、周りの子どもも言い出しにくいことを認識し、発見しにくいもの、発見されにくいものであることを念頭に置かなければなりません。

いじめを早期に発見するためには、子どもたちの日常の行動や生活の様子からちょっとした変化も見逃さず、特にいじめられている子どものサインを見落としてはいけません。

また、日頃の学校生活の中で少しでも気になることがあれば、積極的に声かけをするなど子どもと関わっていくことが早期発見につながります。

気になるサインとして、代表的なものを表にまとめてみました。

授業中

正しい答えを冷やかされる、やじ、嘲笑。何かあると特定の子どもの名前がでる。保健室によく行く・欠席・遅刻（頭痛など）

休み時間

一人でいることが多い。なかよしでないものとトイレに行く。係、当番の仕事を必要以上にやらされている

表情・しぐさ

視線をあわさない。無口、ひとりごと、表情がなく、おどおど。

他の友だちの荷物持つ・好きな給食をあげる

子どものいじめの問題は、大人社会の縮図であるとも言われます。大人社会からいじめ等の人権侵害をなくす姿勢を子ども達に示し、身近な大人がモデルとなることが求められています。子ども達の一番身近である教職員の軽率な言動がいじめを誘発させたり、助長したりします。また、些細な一つのできごとでそれまで築いてきた信頼関係が崩れてしまうこともあります。

ここで、教職員が行っている人権感覚の自己点検チェック表を紹介したいと思います。

この会議に参加されているみなさんは、教職員の方は少ないと思いますが、自分だとしたら、または、自分の職場に当てはめて考えてみてください。

子どもが発言するとき、見ていなかったり、最後まで聞いていなかったりする

提出したノート、プリント、連絡帳など開いたまま放置している
遅刻や忘れ物など理由を聞かずに叱る

身体的特徴、家庭の状況など子ども自身ではどうしようもないことについて冗談や冷やかす

子どもにあいさつと言いながら、自らは率先してあいさつしない
授業中、授業内容と違うことをしていても注意しない

教室にゴミが落ちていたり、机が乱れていたりしても、そのまま授業を始める

「世の中から差別はなくなる」となど差別を肯定したり、解消に消極的な発言をしたりする

子どもたちは、私たち大人をみていろいろなことに気づき、様々なことを感じ取っていることを忘れてはなりません。

学校では

子どもが相談しやすいように、富津市内全中学校にスクールカウンセラーを配置しています。なお、小学校への配置はされておきませんので、同じ中学校区のカウンセラーが対応しています。

職場体験やボランティア、自然体験などの体験活動を取り入れて、自尊感情を高める活動を工夫しています。

いじめなど子どもの問題行動の背景には、子どもの規範意識や社会性の欠如があると言われていています。そのような課題に対して人間関係を円滑にするコミュニケーションの取り方のプログラムを実践しています。役割演技・グループエンカウンター

命の大切さや人権尊重について考えさせる授業や道徳教育の充実などを行っています。

また、市内の学校の教職員はさらに各学期に子どもたちの実態を把握するためのアンケートを実施したり、学期に一度、希望者ではなく、子どもたち全員と教育相談を行う体制を受けられるように行ったりしています。この相談活動の中では、担任以外の教職員と相談を行うことで担任には話しにくいことも相談できる体制を整え

る工夫をするなど学校での取り組みをしっかりと行っています。

ここで、いじめを別の視点から見ていきたいと思います。現在、市内全ての中学校に県からスクールカウンセラーが配置されていることは説明させていただきました。

昨年度、スクールカウンセラーに児童生徒・保護者・教師から合計1257件の相談がありました。一番多かった相談内容は、不登校について314件で全体の25%でした。続いて性格・身体が232件で18%、学業進路が204件で16%、対人関係が186件で15%でした。いじめは、1%という数字ですが、不登校や対人関係など複合的な要素にも含まれていることも考えられます。1257件という数字からも学級担任に話しにくい内容の多さがうかがえます。

いじめをなくす取組として、家庭では、
ささいなことでも気になることは、学校に連絡・相談しましょう
子どもの話をできるだけその場で聞きましょう
子どものお手伝いなどの役割を与え、ほめてあげましょう
いじめ対策の総合的な対策として、いじめ対応の「さしすせそ」というものがあります。

さ 最悪の事態を想定し
し 慎重に
す 素早く
せ 誠意を持って
そ 組織で対応

学級担任1人で頑張ってしまったたり、おうちの人が頑張ってしまったたりといったように、なかなかうまくいかないケースが多く見受けられます。スクールカウンセラーだけではなく、いろいろな方が連携して、早期発見、早期解決に向かっていければと考えております。

学校の現場では、非常にデリケートな問題ですが、日々一生懸命教職員が取り組んでいます。いじめ「0」に向けて、いじめの早期発見・早期解決と、一見矛盾しているような感じもするのですが、これがとても大切なことだと思います。是非とも、ここにいらっしゃる社会教育委員の皆さんが、周りから学校をサポートしていただけたら助かります。よろしくお願ひしたいと思います。以上で説明

<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>を終わります。</p> <p>ありがとうございました。細谷指導主事の説明は終わりました。委員の皆さんから、質疑等ございましたらお受けいたしたいと思います。</p>
<p>齋藤委員</p>	<p>教育センター細谷指導主事に色々と御説明いただいたのですが、学校の先生、あるいは親だけではなくて、何のために学校にはPTAがあるのかと、やはりPTAもうまく活用したらどうなのかと、多くの人の眼でみることができる。私も小学校のPTA会長を2期務めました。その時に実際にいじめがありました。その時に学校側が隠していた。隠していることが発覚して大騒ぎとなった。その話が会長である私の方には話がなくて、親御さんの方で大揉めになって、被害者の親御さんが私のところにきてPTAでなんとかしてくれと、できなければ、県の教育委員会に話をするということがあり、私が入って収めたことがありました。隠されていると表に出てこない。正直に答えていただかないと対応できない。親御さんが見る眼と学校側で見る眼だけではなく、PTAも活用して、みんなの眼で育てていかなければいけないと考えています。ご参考までにお話しいたしました。誰が良い悪いではなくて、皆さんで良くしていかなければいけないと思います。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>齋藤委員から、PTAも活用して、皆さんで協力しながら対応していったらどうだろうかという意見でした。</p>
<p>森委員</p>	<p>PTA代表として、細谷指導主事の説明と齋藤委員のお話を聞いて非常に思った点がいくつかあります。いじめの四層構造論が印象に残ったのですが、四層構造の中の「観衆」と「傍観者」の意識を変えるということが大事である。その中で、先ほど齋藤委員からのお話にあったように、PTAも協力して、PTAが傍観者になっているような組織ではいけないと思います。私たちPTAも協力していきたいと思います。いじめの問題は非常に難しい問題となっています。それを表に出す出さないではなくて、協力して解決していくというのが大事だと思います。もし何か協力できることがあれば、</p>

	<p>P T Aを活用していただけたらと考えています。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>ありがとうございます。 他の委員の方はどうでしょうか。</p>
<p>森千枝子委員</p>	<p>私は中学校の部活動で子どもたちと接しています。実際に、小学校でいじめられている人を助けたために、自分がいじめられる立場になって、中学校になって、連休中にいじめていた子に偶然会って、学校に行けなくなった子どもが、私が指導している団体に入ってきました。彼女は3年間なかなか授業に出られなくて、ただ部活動だけは来てくれた。授業には出られなかったが、学校で別の教室で授業を受けていたとのこと。その子は一生懸命勉強して、高校にも進学しました。私どものような社会体育に関わるものが、学校やクラスとも関係のない立場の色々な年代の子ども達が混ざっていると、ポンと来ると、いじめられている状況を多少なりとも忘れて、状況が改善されて、なんとか学校へいけるようになって、高校に進学して、普通に明るく生活した例がありました。部活をやっている、小学校のときはレギュラーだった子が、中学校に入っていじめられた。たまたま私が指導している団体に友達が入ってきたのですが、違う立場で、学校とは関係のない立場になるとつらいことを忘れて、何かストレス解消になるということでの社会体育という立場というのは、学校とか教育センターとは違った、色々な子どもと関係する団体がナナメの関係で、子ども達に声をかけられる状況をたくさん作っていくことが良いことかなと思っています。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>ありがとうございます。 クラブや団体で子ども達とかかわっている人達がいる。その方々との絆が深まっていけば、大勢の人で子ども達を見守ることができるということだと思います。</p>
<p>黒岩副委員長</p>	<p>他の委員の方はどうでしょうか。 いじめの四層構造というところで、私どもの小学校のころにはガキ大将がいて、自浄作用が働いていたと思うのですが、ガキ大将は今の学校には存在しないのでしょうか。</p>

齋藤委員	昔と違って、今は無くなりました。昔は、参ったといえ、それ以上やらなかったのですが、今はとことんまでやってしまう。陰険ないじめ方になっている。
(議長) 小泉委員長	この問題は色々と考えていただいておりますが、時間の都合上、今日はこの辺で議論を終了したいと思います。またこの件につきましては、別に機会に是非とも話題にしてもらいたいと思います。
齋藤委員	教育委員会でも、社会教育委員会議でこのような話がでたということを押えていただきたいというのが、私の願いです。
(議長) 小泉委員長	それではよろしいでしょうか。
藤平教育部長	<p>お疲れのところ申し訳ございません。少しだけ時間をいただきたいと思っております。今、いじめ問題に関しまして色々と御意見をいただきましたことを、会議が終わりまして、教育委員会の中で、あるいは学校とも相談しながら、意見を参考にいたしまして、対応策を検討していきたいと考えています。</p> <p>御報告したいことがございます。新聞等ですでに御承知の方もいらっしゃるかと思いますが、総合社会体育館のメインアリーナの天井部材（アルミ製）の一部が11月4日に落下いたしました。バスケットボールの大会中でしたが、幸いにして怪我人はいませんでした。その後、関係部署を集めまして、点検しまして、差し迫った危険がないだろうと。設計業者にも点検してもらいまして、同じような意見をもらいました。ところがコンサルタントさんの御意見ですと、施工業者にも見てもらった方が良さだろうとの御意見から、12月5日に施工業者立会により再度点検いたしました。やはりただちに差し迫った危険性はないとはいいいながらも、同じような部材を使用している可能性もあることから、念のため確認した方が良さではないかという御意見でした。このことを受けて、市長も安全・安心のまちづくりを施策に掲げていますので、教育委員会と他部署の協力を得ながら検討した結果、メインアリーナの下にネットを張</p>

	<p>り対応するという予算がつかまりましたので、ただちに契約事務に着手し、利用者のための安全確保と利用者への迷惑をなるべく早く解消しようと努力しております。</p> <p>以上ご報告させていただきます。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>今の教育部長からの報告ですが、委員の皆様で何かお聞きしたいことはございますか。</p>
<p>黒岩副委員長</p>	<p>原因はなんだったのでしょうか。</p>
<p>藤平教育部長</p>	<p>原因ははっきりしたことはわからないのですが、平成3年2月に完成しておりますので、20数年経過しておりますので、経年劣化と海沿いの風の影響や3.11の地震の影響等によるのではないかという施工業者の話がありました。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>教育部長より総合社会体育館にて話があったような対応をしているとのことでした。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>話がまたいじめの問題に戻りますが、素晴らしい話を細谷指導主事からお伺いして、実際に学校のほうにどこまで要望するのでしょうか。学校も頑張れと言いながら、学校の方も親世代にどうやって発信していくかということが、非常に難しいことかなと思います。私たちはそういうところにもっともっと努力をしなければいけません。たとえば、こういう会議の席で話された内容を、家庭の方でどういうように情報を流していくのか。それこそ、青少年相談員の代表の方や、PTA会長も会議に出席していて、私のような地域のボランティアで学校に関わっている者が、もっともっと細かく発言し合えたら、いいじゃないのかなとおもいます。情報だけもらって終わりにするのではなくて、それをどうやって発信していくのか。発信してかないといけません。</p>
<p>齋藤委員</p>	<p>PTAは情報をもらうだけではすまない。情報をもらうと入り込まないといけない。</p>

杉田委員	<p>私は急に家庭教育学級の講師を頼まれて、実際に子育てをしている母親たちの中に入って、ものすごく自分のイメージしていた家庭教育について、一緒に子育てしあうという雰囲気がなかなか母親たちから窺えなかった。そのことに危機感を感じました。だからPTA活動を何か企画するのも大変なんだろうなと思いつつ、今日のような話の内容を家庭に、学校に、我々地域の人間にどういうように発信するかということを教育委員会にお骨折りいただきたい。</p>
庄司委員	<p>各学校でも、子ども達は、学校だけではなく、保護者や地域を含めた皆で育てていくんだということを認識して発信しています。私の学校も何かあれば、子ども達の様子で変わったことなど、いつでも情報交換などをPTAの企画で実施しています。3者が協力して子ども達を育てていくことがいじめの問題も含めて、やっていけたらと思っています。</p>
森淳一委員	<p>私の小学校では、いじめとは別になりますが、給食のこととか、学級でこういうことがありましたという多種多様なお知らせ文がほぼ毎日のように送ってくれています。それらのお知らせを通じて子どもとの対話をするために学校から送られてきていると私は考えています。そのことの延長線上がこのいじめにも関わってくるかと思いますが、家庭で子どもとのコミュニケーションをまずとってください。そこから子どもの細かなシグナルを読み取ってください。そういう意味で私は書類に目を通しています。そういうように学校側からは親に対しては来ていて、PTAも大切なんでしょうけど。学校側から個々の親にはアプローチはあると認識しています。</p>
杉田委員	<p>学校側の先生方のケアはどうしているのかということをお細谷指導主事の話聞きながら、疑問がたくさん湧いてきて、アンケートのことやアンケートを書いている子ども達も自分を振り返りながら書いていると思うので、そういう方法は効果があるだろうなと思います。また細かく話を伺える機会があったらと思います。</p>
(議長)	<p>皆さん言いたいことがまだまだありそうですが、今日はこの辺で</p>

<p>小泉委員長</p> <p>(事務局)</p> <p>藤江課長</p>	<p>終わりにしたいと思います。また機会を設けていきたいと思 います。細谷指導主事ありがとうございました。</p> <p>他に何かあるか。無いようなので、議事を終了する。</p> <p>(第2回富津市社会教育委員会議の閉会を宣言。)</p>
---------------------------------------	--